

発議第 4 号

核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書

上記の意見書を別紙のとおり提出します。

令和6年6月7日

提 出 者

八雲町議会議員 佐藤 智子

賛 成 者

八雲町議会議員 横田 喜世志

八雲町議会議長 千葉 隆 様

## 核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書

広島と長崎に、アメリカの原子爆弾が投下されてから 72 年を経た 2017 年 7 月 7 日、歴史的な核兵器禁止条約が採択された。同年 9 月 20 日には同条約への調印・批准・参加が開始され、2021 年 1 月 22 日に発効することとなった。現在は 196 カ国の半数近くの 93 カ国が署名し、70 カ国が批准している。

核兵器禁止条約は、核兵器について破滅的な結末をもたらす非人道的な兵器であり、国連憲章、国際法、国際人道法、国際人権法に反するものであると断罪して、これに「悪の烙印」を押した。

条約は、開発、生産、実験、製造、取得、保有、貯蔵、使用とその威嚇にいたるまで、核兵器に関わるあらゆる活動を禁止している。条約は被爆者や核実験被害者への援助を行う責任も明記している。

核兵器禁止条約は、被爆者とともに私たち日本国民が長年にわたり熱望してきた核兵器完全廃絶につながる画期的なものである。この核兵器禁止条約の規範力を強化し、核兵器の使用を防ぐことが強く求められている。

2022 年 2 月 24 日、ロシアのプーチン大統領は、ウクライナへの軍事侵略に合わせて、「ロシアは世界で最も強力な核保有国の一つだ。わが国を攻撃すれば壊滅し、悲惨な結果になる」と核兵器による威嚇を行った。その後も繰り返し核使用の脅迫を行いながら侵略を続けている。また、パレスチナのガザ地区でジェノサイドを行っているイスラエルは、閣僚がガザへの核兵器使用を「選択肢」と発言した。これらは、核兵器の使用・威嚇を禁じた核兵器禁止条約に明確に違反するものである。

いまこそ広島、長崎の原爆被害を体験した国におかれては、核兵器の使用を許さず、核兵器を全面的に禁止させる先頭に立たなければならない。その証（あかし）として、核兵器禁止条約に参加、署名、批准することを強く求める。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 6 年 6 月 7 日

北海道二海郡八雲町議会議長 千葉 隆

### 【提出先】

内閣総理大臣  
外務大臣